

## 法学部専任教員 2021年度研究業績

饗庭 未希子

【著書・論文】

- ① Ronen Avraham=Kimberly Yuracko 著／角松生史=饗庭未希子=尾下悠希訳「不法行為と差別」神戸法學雑誌71巻2号193～299頁
- ② Kimberly Yuracko=Ronen Avraham 著／角松生史=尾下悠希=饗庭未希子訳「黒人の生命の金銭的評価」神戸法學雑誌71巻3号99～174頁
- ③ 角松生史=尾下悠希=饗庭未希子「訳者解題：『不法行為と差別』『黒人の生命の金銭的評価』」神戸法學雑誌71巻3号175～206頁

【現在の研究テーマ】

現代的サブリース契約の課題

石田 若菜

【現在の研究テーマ】

性的指向／性自認に基づく差別  
婚姻／生殖の権利  
連邦最高裁における原意主義・条文主義

海老澤 豊

【論文】

「ポープの『横町』—スペンサーの模倣」『駿河台大学論叢』  
第62号（2022）65-76頁

【現在の研究テーマ】

十八世紀の英詩

王子田 誠

【著書】

共著『スタンダード商法Ⅱ会社法〔第2版〕』（法律文化社2022年）第3章4節～8節

【判例評釈】

「商品先物取引における顧客の損失に対する取締役の責任」駿河台法学35巻2号75-85頁

【現在の研究テーマ】

投資者保護法制に関する研究、Benefit Corporation に関する研究

上河内 千香子

【著書・論文】

「継続的保証における契約の終了(上)(下)」商事法務ポータル SH3776(10/5)

【現在の研究テーマ】

共同所有に関する比較法研究 担保法に関する研究

草地 未紀

【現在の研究テーマ】

高齢消費者被害の救済に向けた見守りネットワークの構築と活用についての研究(科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)(一般))

黒木 美來

【著書・論文】

①黒木美來(2021)「欧州統合をめぐるイギリス労働党と欧州統合運動団体の対立—1948年5月ハーグ会議への参加問題を事例として—」『早稲田政治公法研究』第119号、1-19頁

②黒木美來(2022)「ハーグ会議における文化統合構想」『日本政治法律研究』第4号、163-188頁

【学会報告その他】

①「『欧州議会』の創設を求めて—欧州審議会設立過程における国際圧力団体の役割—」日本政治法律学会第7回研究大会、2021年5月15日

【現在の研究テーマ】

欧州統合と欧州運動のかかわり

**黒田 基樹****【著書】**

『図説享徳の乱』（戎光祥出版、2021年4月、総頁163）

『下剋上（講談社現代新書2624）』（講談社、2021年6月、総頁222）

『戦国関東覇権史 北条氏康の家臣団（角川ソフィア文庫）』（KADOKAWA、2021年7月、総頁266）

『戦国「おんな家長」の群像』（笠間書院、2021年8月、総頁213）

**【編書】**

『北条氏康とその時代（戦国大名の新研究2）』（戎光祥出版、2021年7月、総頁359）

『室町遺文関東編第4巻』（共編、東京堂出版、2021年9月、総頁295）

『戦国遺文真田氏編第4巻』（共編、東京堂出版、2021年11月、総頁326）

**【論文】**

「戦国時代の難波田氏」（『富士見市立資料館調査研究報告』1号、2021年9月、1～5P）

「室町末期武家領主による所領支配の実態—長尾忠景を事例に」（蔵持重裕編『日本中世社会と村住人』勉誠出版、2021年9月、227～249P）

「北条氏康の試練」（小田原城天守閣特別展『没後450年 北条氏康伝』、2021年12月、128～129P）

「戦国大名 北条氏康—「今代天下無双の覇主」—」（『令和3年度小田原城天守閣特別展『没後450年 北条氏康伝』関連イベント特別講演会』、2022年1月、1～8P）

「北条氏規・氏盛の動向」（大阪狭山市教育委員会編『狭山池シンポジウム2020記録集 北条氏と豊臣政権』、2022年3月、25～47P）

**【現在の研究テーマ】**

日本中近世移行期社会の研究

**笹岡 伸矢****【学会報告その他】**

「戦前の女性参政権成立における政治的要因 計量分析から考える」『日本国

際政治学会』2021年度研究大会、2021年10月31日

【現在の研究テーマ】

女性参政権の比較政治、新型コロナの政治・行政対応

清水 知佳

【著書・論文】

著書

①共著『判例アメリカ環境法入門』（勁草書房、2022年）第2章「連邦主義」43-46頁

②共著『行政法判例百選Ⅱ（第8版）』（有斐閣、2022年）Ⅱ-212事件「申請処理の遅延による精神的損害の賠償」

論文

①「アメリカの原子炉廃炉プロセスにおける市民参画の制度と実態—廃炉市民パネルの役割とその可能性—」駿河台法学36巻1号51-74頁（2022年）

【現在の研究テーマ】

行政法、環境法、地方自治、原子力安全規制

染田 恵

【著書（共著）】

①染田恵，2021.12，「修復的司法」，「問題解決型法廷／コミュニティ・ジャスティス」，「多機関連携による支援」，藤本哲也編，「更生保護学事典」，成文堂，pp.126-131.

②(a) 染田恵，2022.3，「第11章 恩赦」，松本勝編，「更生保護入門（第6版）」，成文堂，pp.167-179.

②(b) 染田恵，2022.3，「第14章 犯罪者の社会内処遇における多機関連携」，松本勝編，「更生保護入門（第6版）」，成文堂，pp.202-241.

②(c) 染田恵，2022.3，「第17章 我が国における再犯防止施策の展開と実施（再犯防止推進法）」，松本勝編，「更生保護入門（第5版）」，成文堂，pp.285-297.

【論文】

染田恵，2022.3，「犯罪者処遇における社会的企業（ソーシャル・ファーム等）」

と起業支援の活用－新たな意味での就労支援を通じた再犯防止からデシタンスへの道」, 山口厚ほか編, 『高橋則夫先生古稀祝賀論文集 [下巻]』, 成文堂, pp.833-884.

【現在の研究テーマ】

「犯罪者の社会内処遇－社会奉仕命令及び電子監視を中心に」ほか

朴 昌明

【学会報告その他】

<研究会報告>

朴昌明「文在寅政権下の韓国労使関係」韓国経済システム研究会（環日本海経済研究所）2021年10月16日。

【現在の研究テーマ】

社会政策論・労働経済学・人的資源管理

長谷川 裕寿

【著書・論文】

「職務執行に適法性は必要か」山口厚ほか編『高橋則夫先生古稀記念論文集〔下巻〕』（成文堂、2022年3月）

【現在の研究テーマ】

応答責任と修復責任、刑法における情操、刑事責任と物語り論・時間論

平山 陽一

【著書・論文】

解除法理における「契約目的概念」の意義・機能－ドイツ法を素材として－法律論叢94巻1号241頁－267頁（2021年7月）

【学会報告その他】

明治大学民法研究会（2021年5月）報告

【現在の研究テーマ】

契約目的概念、契約解除

福島 大我

【著書・論文】

①「中国古代の舎と舎人について—新出簡牘史料の分析を中心として—」(『専修史学』71号、2021年11月)

②「『嶽麓書院藏秦簡(参)』訳注(五) 第一類 案例〇五「多小未能與謀案」」(『専修史学』71号、2021年11月)

③「『嶽麓書院藏秦簡(参)』訳注(六) 第一類 案例〇六「暨過誤失坐官案」」(『専修史学』72号、2022年3月)

(②と③は、専修大学『二年律令』研究会による共訳注)

【学会報告その他】

・「秦漢時代の舎について—公と私との関係を中心に—」

(2021年度 専修大学歴史学会大会、2021年12月12日)

・雑誌『歴史評論』(一般財団法人 歴史科学協議会)の編集委員として、特集の企画等

【現在の研究テーマ】

出土法律文書をもちいた、中国古代の社会と国家の研究

松平 光徳

【現在の研究テーマ】

「知的財産法の現状と課題」

宮下 摩維子

【著書・論文】

①著書

‘Clarification of Facts in Austrian Enforcement Law in Effective Enforcement of Creditors’ Rights’ (共著) Comments on the Paper of Professor Dr. Walter H. Rechberger, 担当範囲23-26頁, Springer

②著書

『嫌いにならない法学入門』(共著) 第9章担当119-131頁, 信山社

③論文

「イギリスにおける法専門職教育の発展と変遷」比較法研究82号,114-120頁  
(単著)

**【学会報告その他】**

- ① Professional Legal Education Compared Between the United State and the United Kingdom (アメリカ法判例研究会)
- ② Professional Legal Education in the UK Compared with the US (比較法学会第84回大会 ミニ・シンポジウム「アメリカの大学におけるロースクールの発展とその社会性」)
- ③ Comparative Study of ODR in Asia (国際民事訴訟法学会2021)

**【現在の研究テーマ】**

民事訴訟法、民事執行法、仲裁、英米法、養育費の強制執行、公証法

**和田 忍****【研究テーマ】**

「中世ヨーロッパの信仰文化」

**【論文】**

「中世ヨーロッパにおけるテキストの伝達—アルフリッチの説教の場合 (2)」  
(査読付)

単著、2022年3月発行、『中央英米文学』第55号、中央英米文学会、38-52ページ。

**【翻訳】**

「試訳 ウルフスタンの「邪悪な時代」に係わる説教」

共著 (和田、市川誠 (東京理科大学))、2022年3月発行、『東京都市大学共通教育部紀要』第15号、東京都市大学共通教育部、145-50ページ。

**【発表・報告】**

なし

